

本書において42、43、50、51ページに、誤りがございました。内容を訂正すると共に、読者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。恐れ入りますが、正しい内容を反映したこちらの訂正ページへ差しかえて、ご利用いただけますようお願い申し上げます。なお、版によっては、すでに訂正内容が反映されている場合もございますので、ご了承ください。

### 3章 商品売買

問 商品売買の処理 難易度：B 出題頻度：C  
11

下記に示す商品売買に関する処理は、(A) 分記法 (B) 三分割法 (C) 売上原価対立法のいずれの方法で行われたかをアルファベットで答えなさい。また、いずれにも該当しないものは解答欄に「なし」と記入しなさい。

- 取引1：(売 上) xxx (売 掛 金) xxx  
(商 品) xxx (売 上 原 価) xxx
- 取引2：(買 掛 金) xxx (仕 入) xxx
- 取引3：(売 掛 金) xxx (商 品) xxx  
(商 品 販 売 益) xxx
- 取引4：(売 上) xxx (売 掛 金) xxx
- 取引5：(商 品 販 売 益) xxx (売 掛 金) xxx
- 取引6：(買 掛 金) xxx (仕 入 割 引) xxx
- 取引7：(仕 入) xxx (買 掛 金) xxx
- 取引8：(売 掛 金) xxx (売 上) xxx  
(売 上 原 価) xxx (商 品) xxx
- 取引9：(買 掛 金) xxx (商 品) xxx

解答欄

1	2	3	4	5
6	7	8	9	

### 解答・解説

1	C	2	B	3	A	4	B、C	5	A
6	なし	7	B	8	C	9	A、C		

#### POINT 1 使用する勘定科目

3つの処理方法では、下記のような勘定科目が使用されます。

(A) 分記法	(B) 三分割法	(C) 売上原価対立法
<ul style="list-style-type: none"> <li>商品</li> <li>商品販売益</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰越商品</li> <li>仕入</li> <li>売上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品</li> <li>売上原価</li> <li>売上</li> </ul>

#### POINT 2 各取引の内訳

- 取引1：商品勘定と売上原価勘定を用いているので、売上原価対立法の返品時の処理ということになります。
- 取引2：仕入勘定は三分割法の勘定科目であり、これが貸方に計上されているため仕入の割引、返品もしくは割戻の処理ということになります。
- 取引3：商品販売益は分記法に用いられる科目です。問題の仕訳は分記法の売上時の仕訳です。
- 取引4：売上勘定を用いるのは三分割法と売上原価対立法です。問題の処理は借方が売上になっていますから売上値引、返品もしくは割戻の処理です。
- 取引5：商品販売益は分記法で使用します。これが借方に計上されていますから売上値引、もしくは売上割戻の処理です。
- 取引6：これは商品売買取引ではなく、買掛金の早期決済による代金の一部控除によるものです。仕入割戻と混同しないように注意しましょう。
- 取引7：仕入勘定は三分割法で用いられません。問題は掛仕入の取引になります。
- 取引8：売上原価対立法の売上時の処理です。
- 取引9：商品勘定が用いられるのは分記法と売上原価対立法です。この取引は仕入返品、割引もしくは仕入割戻の処理です。

問 仕入・売上割引

難易度：B 出題頻度：A

15 下記に示す資料を参考にして、解答欄に示す損益計算書の( )の中に入る金額を答えなさい。

繰越商品	107,000	売上	2,185,000
仕入	?		

(資料)

(1) 残高試算表の仕入勘定の内訳は、下記の通りである。仕入取引はすべて掛けにより行われている。

	値引	24,000円
	割引	31,000円
総仕入高	1,586,000円	
	返品	52,000円
	割戻	19,000円

- (2) A得意先との間で行われた契約により37,000円の売上割戻を行うこととして、掛代金と相殺する処理を行う。
- (3) B得意先からの売掛金回収は通常90日先の支払期日による約束手形により回収していたが、今月は金額も少ないことから165,000円の売掛金回収に際して150,000円の小切手で受け取り、残額は売上値引したが未処理である。

解答欄

I 売上高	( )
II 売上原価	
期首商品棚卸高	107,000
当期商品仕入高	( )
計	( )
期末商品棚卸高	156,000 ( )
:	:
IV 営業外収益	
( )	( )

解答・解説

I 売上高		(2,133,000)
II 売上原価		
期首商品棚卸高	107,000	
当期商品仕入高	(1,491,000)	
計	(1,598,000)	
期末商品棚卸高	156,000	(1,442,000)
:	:	
IV 営業外収益		
(仕入割引)	( 31,000)	

POINT 1 仕入勘定から仕入割引の除外

仕入勘定の貸方に計上されている仕入割引は、処理ミスなので修正します。また仕入割引は損益計算書の営業外収益の区分に計上します。

(仕入)	31,000	(仕入割引)	31,000
------	--------	--------	--------

割戻と割引は文字が類似していますが、取り扱いがまったく異なるので問題文に注意してください。

$$\begin{aligned} & \text{現在の残高試算表の仕入勘定} \\ \text{当期商品仕入高} &: (1,586,000\text{円} - 24,000\text{円} - 31,000\text{円} - 52,000\text{円} - 19,000\text{円}) \\ & \quad \text{仕入割引} \\ & \quad + 31,000\text{円} = 1,491,000\text{円} \end{aligned}$$

POINT 2 売上割戻に関する処理

売上割戻は多量、多額の取引による売買代金の控除なので売上勘定をマイナスします。

(売上)	37,000	(売掛金)	37,000
------	--------	-------	--------

POINT 3 売上値引の処理

売上値引に関する処理を行います。

(現金)	150,000	(売掛金)	165,000
(売上)	15,000		

$$\text{売上高} : 2,185,000\text{円} - 37,000\text{円} - 15,000\text{円} = 2,133,000\text{円}$$